

横浜市における創造活動に関する研究
クリエイティブシティ・ヨコハマを通して
A Study of Creative Activity in City of Yokohama
A Case Study on “Creative City Yokohama”

○佐脇三乃里¹, 佐藤慎也²
 *Minori Sawaki¹, Shinya Satoh²

In order to understand the effect of creative activities in City of Yokohama, it is necessary to focus on the interrelation of the following three points: The City / Town, the Architecture / Locations, and the People. To research the changes of the city with the efforts that are actually executed according to the public policy, an analysis of the results of a survey will be made, and to monitor how effective to the people that do creative work are the policies of Yokohama city. An examination of any interrelation between people and city throughout the creativity.

1. 背景と目的

近年、欧州を中心に新しい都市創造の概念としてクリエイティブシティ（創造都市）という構想がつけられ、多くの都市で盛んに取り組まれている。クリエイティブシティとは、市民の活発な創造活動によって先端的な芸術や豊かな生活文化を育み、革新的な産業を振興する「創造の場」に富んだ都市のことである。21世紀に入り、我が国でもクリエイティブシティ構想が、金沢市、横浜市においても提唱されるようになった。特に横浜市ではいち早く政策として実行されている。

本研究は、横浜市のクリエイティブシティ構想における創造活動の効果を把握するために、都市の形成、あるいはまちづくりに有効であると考えられる、都市／街、建物／場所、人の相互関係に焦点をあてるものである。文献調査・アンケート調査から、政策の中で実際にどのような取り組みが行われ、それによって街にどのような変化が起こったのか、さらに創造的な活動を行う人々にどのような効果をもたらしたのかについて検証し、街と人が創造力を通してどのような相互関係をもつのか考察を行う。そして、今後創造活動を通して、建物、あるいは都市や街の再生を行う際の参考になることを期待する。

2. クリエイティブシティ・ヨコハマについて

横浜市では、1947年から始まる成人学校¹⁾をはじめ、1964年に中区役所内に横浜市民ギャラリーが開設されたことで、現代美術の情報発信が行われた。また、演劇に関しては、1986年に野外公演が行われたことをきっかけに、歴史的建造物や倉庫など、ホール外のオルタナティブスペースでの公演が次々と行われるようになっていった。そして、旧市街地である関内地区において、就業人口が約2万人に減少したことや、オフィスビルの空室率が2002年に14%近くにまで達したことから、関内山下地区の衰退につながる事態と認識されるようになった。

こうした中、これからのまちづくりに対して、横浜の歴史や文化の価値を基盤とした「横浜らしさ」

に着目し、2004年に「文化芸術創造都市—クリエイティブシティ・ヨコハマ—」が新たな都市ビジョンとして形成された。

クリエイティブシティ・ヨコハマは、文化芸術振興や経済の振興（ソフト）と横浜らしい魅力的な都市形成（ハード）を融合し、都心部活性化を図っていくことを目的としている。具体的な取り組みは、歴史的建造物が多く集積する中区を中心に、「ナショナルアートパーク構想」、「創造境界の形成」、「映像文化都市」、「横浜トリエンナーレ」、「創造の担い手育成」の5つのプロジェクトを柱として構成されている。

3. 調査結果

3-1. 創造境界の形成と横浜トリエンナーレ

歴史的建造物の保存を背景に、創造境界地域では、アーティスト等が活動を行える拠点や学校などの施設がつけられ、4年間でその数は20にも達している（図1）。創造活動拠点のほとんどは、銀行や倉庫などの歴史的建造物や使用されなくなった地域資源を活用したものであり、活動拠点を内容によって分類すると、4種の用途に分けられる（表1）。

いずれも地域資源を活用することが目的であるため、用途ごとにビルディングタイプが選ばれているわけではないことが分かる。また、新設された施設に新港ピア、黄金スタジオ、日ノ出スタジオが挙げられるが、前者は横浜で最も古いとされる埠頭に設置され、後者2つは高架下に設置された施設であり、いずれも地域の特性や資源を活かした場所につけられている。

一方、横浜トリエンナーレにおいて、会場のボランティアスタッフやトリエンナーレをサポートする市民の活動が積極的に行われるようになったことや、会場の周辺で開催された連動企画が、トリエンナーレの支援をするとともに、現代アートと市民をつなぐ役割を果たしたことから、横浜トリエンナーレを通して、市民や創造活動拠点の位置づけが重要なものとなったと考えられる。

1：日大理工・院・建築、Graduate Student, Graduate School of Sci. & Tec., Nihon Univ.

2：日大理工・教員・建築、Assist. Prof., Dept. of Architecture, Coll. of Sci. & Tec. Nihon Univ., Dr. Eng.

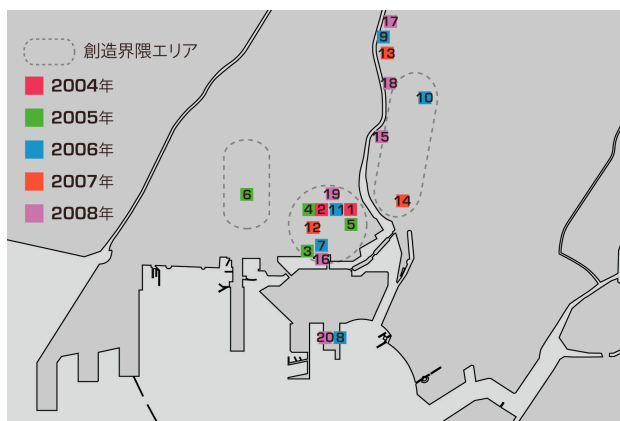


図1 創造界隈地域における創造活動拠点

3-2. 創造活動拠点の活動者

2001年に、創造活動拠点について、その活動者に、建物自体、立地、事業環境に関して満足度・重視度調査²⁾が行われた。その結果では、回答をした活動者の8割を超える人が、「建物自体の魅力」、「賃料の適切さ」、「利用時間の自由度」、について重視すると共に、満足をしていた。このことから、ビルディングタイプに関わらず、活動に対する自由度や受け入れ体制などのソフト面を充実させることで、活動者に満足を与える効果が得られていると考えられる。一方、「助成制度の有無」に関しては、重視度と満足度との間で31.2%と最も差が開いていたが、現在では助成制度に関する情報提供や、助成金を運用する取り組みを行うことで対応している。

さらに、政策と活動内容との関係を把握するために活動者に対するアンケート調査を行った。その結果、ほとんどの人が、活動拠点に入居したことによって他の入居者とのコラボレーションや、イベントにおける市民との交流から活動に幅が広がり、そういった経験を通して今後も横浜での活動を続けていきたいと答えた。このことから、活動者は、活動拠点でのつながりやきっかけを自分の活動に反映させると同時に、外に発信していると考えられる。一方、「今後のクリエイティブシティ・ヨコハマに期待ができるかどうか」という質問に対しては、行政のあり方に対する問題から期待が持てないという意見もみられた。このことから、活動者は自分自身が創造界隈を形成する要素として成り立っていることを認識することが重要であると考えられる。

4. 考察とまとめ

クリエイティブシティ・ヨコハマには、都市を形づくる建築に関して、ハードである歴史的建造物や地域資源として残された建物を保存し、建築の中でどのようなことが行われるか、というソフトの面を再構築することで、都市の記憶を形成しつつ、新たな横浜の魅力を引き出している効果があると考えられる。また、創造活動拠点の広がりとともに集積した様々な分野で活動を行う人々が、他分野との融合から新たな活動や外に対する相乗効果を創出して

ることが分かった。こうした相互の間で連鎖的に起こる出来事は、現在のクリエイティブシティ・ヨコハマを形成する一つの要因となっていると考えられる。しかし、クリエイティブシティ・ヨコハマは、横浜という大きな都市の一部で起こっている出来事にしかすぎず、今後も活動を継続・展開していくことが大きな課題であり、そのためには創造活動の担い手を充実させることが重要であると考えられる。

表1 創造活動拠点の活動内容と使用面積

用途	施設名	番号	使用面積 (㎡)
展示・イベント等	BankART1929Yokohama	1	320、80
	BankART1929 馬車道	2	不明
	BankART Studio NYK	3	200、360
	ZAİM	6	288
	創造空間 9001	14	170
	野毛マリヤビルホワイト	15	33
	黄金スタジオ	17	299.87
	日ノ出スタジオ	18	212.07
	本町実験ギャラリー	19	80
	新港ピア	20	4,400
オフィス・アトリエ・スタジオ等	北仲 BRICK&WHITE	5	約10~280
	ZAİM	6	約24~85
	万国橋 SOKO	7	不明
	アートプラットフォーム急な坂スタジオ	10	50~240
	本町ビル45	11	約10~120
	Kogane-X Lab.	13	不明
	野毛マリヤビルホワイト	10	33、38
	黄金スタジオ	17	16.88~20.52
日ノ出スタジオ	18	約24~54	
レジデス	BankART Studio NYK	3	20~60
	ZAİM	6	約12~240
	BankART 桜荘	9	47
	野毛マリヤビルホワイト	15	33
学校	東京藝術大学大学院映像研究科	4	1,575
	万国橋 SOKO	7	不明
	東京藝術大学大学院映像スタジオ	8	2,500
	横浜国立大学大学院建築都市スクール Y-GSA	12	290
	東京藝術大学大学院アニメーション専攻	16	不明

【註】1)生涯学習事業のことで、テーマを絞り込んだ専門的な内容の講座が積極的に企画されていた。

2) 浜銀総合研究所により「横浜トリエンナーレ 2001 報告書」において行われた調査。

【参考文献】

- [1]横浜市開港150周年・創造都市事業本部創造都市推進課+BankART1929：クリエイティブシティ・ヨコハマのこれまでとこれから、BankART1929、2008年11月
- [2]野田邦弘：創造都市・横浜の戦略、学芸出版社、2008年8月